

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300971
法人名	なごみ福祉会
事業所名	グループホーム青い鳥
所在地	鹿児島県鹿屋市古江町796-1 (電話) 0994-46-3056
自己評価作成日	平成26年9月

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入所者の身体機能を維持する為に毎日かかさずスロー体操やリハビリ体操を継続している。②鹿屋市で唯一海岸に面した施設で人気があり、散歩コースとして浜辺に行ける為とても喜ばれる。③衛生面に配慮し不潔になりやすいトイレは1日何回も掃除し清潔に保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市郊外錦江湾の潮の香り漂う港町にあるホームであり、周りには学校・保育園・交番もある。ホームの敷地内にはデイサービスと有料老人ホームもある。近隣地域との交流は、高齢者についての相談をうけたり、地域住民が自由に参加できるサロンを提供したり、日常的な散歩に行くと声を掛けられたりと密な交流ができています。

利用者の体力機能低下の予防のために、体調をみながらほぼ毎日スロー体操や健康器具を取り入れた筋力トレーニングを行い、身体機能維持に努めている。排泄チェック表を活用することで、排泄パターンを把握でき日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。

職員は、管理者へは相談もしやすく職員間はアットホームな関係ができていて、その関係から利用者へも気持ちが伝わり、日々のケアに繋がっている。利用者とは家庭的な雰囲気の中で、地域にしっかりと受け入れられ密着したホームとして、理念のごとく安心と誇りを抱き、ゆったりとした毎日を楽しみながら生活することができる。「幸せの青い鳥」のそんなイメージを抱けるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	[住み慣れた地域の中で人と人とのふれあいを元に生き甲斐のある毎日を送れるように]を理念とし管理者、職員は利用者と共に計画的に取り組んでいます。	理念は職員が目にしやすい3箇所に掲示されている。理念の見直し後、職員も個々の目標を持ち、日々理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	非常時の協力体制が整う。近隣の方々が自由に参加できるサロン等の設立等で交流を深めています。	町内会に加入しており、地域の行事への招待、参加もあり交流している。運営推進会議へも参加してもらったり、町内会長や民生委員からの声掛けで交流会も開催し、地域の一人として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	今年度は27年1月頃に認知症に関して、地域での勉強会を計画し理解を得たい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者へのサービスのあり方についてその都度必要な方に参加して頂き、出された意見をサービスに反映している。最近では市議員に出席頂き地域の高齢者生活について話し合った。	地域との交流が深いので 運営推進会議への参加者も、町内会長を始め地域の方や行政・家族代表また隣接学校の校長も参加してもらい、議題に事欠くことなく、意見要望を出して頂き、サービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か分からない点があれば市に聞き確認することが一番確実と、思い必要時相談し協力をもらっている。	日頃より相談に応じてもらったり、情報をメールで交換したりしている。運営推進会議への参加など、その協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し「絶対あってはいけない事」としてパート、職員周知しており身体拘束は行っていない。	職員は年間計画の中にも研修会があり参加している。職員に周知徹底していかなる場合でも拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。言葉の拘束も、利用者に対して、どう対処するかなど返す言葉も決め、利用者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会で身体拘束について話し合い、車椅子やベッドからの転落の可能性の高い方の見守りを強化している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修にすこしでも多くの職員が参加している。参加したものが皆に研修内容を報告し全員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に契約書、重要事項説明書、運営規定、と同じような内容の説明を繰り返し行う事で理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に不安に感じている事や要望はないか聞く。玄関先に意見箱も設置している。家族会議では意見や要望を聞く時間が設け、アンケート調査も行いサービス見直しに活用させて頂いている。	日常の面会時や電話連絡時、また家族会でも、意見要望を聞き出すよう努めている。出された意見要望は、職員で話し合い、運営に反映させている。家族会ではアンケートを取り、サービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会で意見を聞きそれを皆で話し合い、皆が納得できるやり方で導入している。しかしうまくいかない時は意見を出し合い改善している。	全員参加の職員会議では、いろいろな業務に関する意見やケアに対する要望も出される。出された意見要望は可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力、努力、意欲等把握している。個人差はあるが向上心を持ち仕事に取り組んでもらえるよう研修会への積極的参加を促す。労働条件も改善した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>金田企画と年間契約しておりつき1回ずつの研修には必ず出席して、後日職員会で発表し共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列にデイサービスと有料老人ホームがあり合同のイベントを企画し職員の交流を図り、研修の場としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は頻繁に声かけして良く眠れているか不安に感じる事はないか聞きプランに落とし要望に答えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞きプランに落としたり必要な時は何回も聞き、家族も安心できるように生活状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている課題をプランに落とし支援を強化している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを探し何か一つでも人の役に立っているという喜びを感じられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を報告する事で共通理解の元家族の出来る通院介助や体調不良時の面会等お願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ友人や知人に来て頂関係が途絶えないように配慮している。	利用者の友人・知人の訪問もある。希望があれば墓参りへも連れて行っている。また隣接のサービス利用者との行き来もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に親しくしている人同士隣席する事でお互いの支えになっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が退所されても遊びに来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長い在宅生活時の生活習慣はすぐには変えられないので環境に馴染む事を優先し、本人本位に生活していただいている	職員間で利用者の気持ちを共有しあっているが、会話による意思疎通が困難な場合には、こちらから声掛けを多くし、表情を読み取り把握に努めている。利用者の心身状況をみて本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から在宅時の生活状況、家族関係、嗜好等に付き聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握した上で何が出来るのか現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	マネージャーが作成したプランを元に本人家族職員で話し合い計画を作成している。	利用者や家族・医療機関との連携で6ヶ月ごとに見直している。身体状況に変化があるときや必要な時は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録を記し申し送りを行い、職員間で情報を共有している、その情報を元にプランの変更を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や変化するニーズに対応するため柔軟にサービスを見直している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小中学生のボランティア活動や消防団員にきてもらい安全で豊かな暮らしを楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族対応が契約時の条件となっているが、往診に変えることで家族の負担軽減を図ると共に終末期までの対応を行っている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医に家族が定期的を受診しているが、往診に変わっていく利用者もいる。歯科は往診に来てもらっている。利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>4月から医療連携のサービスを開始、訪問看護師に必要な情報を提供し相談の上、必要な治療や看護が受けられるように配慮している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院したらADLや生活状況について情報提供し入院中でも排泄、食事等について大きな変化がないように配慮している。又職員は交代で見舞いに行き病院との関係を築いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期のあり方を充実させる為訪問看護を導入し、急変時の家族の事前意思確認書を頂いている。</p>	<p>看取りの状況になった時の対応については、入所時に事業所の出来ることを家族には説明し同意書をもらうことになっている。利用者の体調の変化時は、連絡体制がとられていて、訪問看護との連携も築かれている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>9月3日に心肺蘇生法、AEDの使い方・異物除去等について研修を行い緊急時には誰でも対応できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に関しては毎月避難訓練している。地震で津波の危険性がある場合はいち早く非難できるルートを職員は理解している。地域との合同訓練は1回もやっていない	年2回の避難訓練や夜間想定時の訓練、また津波時の避難ルートの確保などを行っている。訓練には近隣の住民や消防団の参加もある。スプリンクラーの設置や、備蓄品も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーの確保に努めているが、稀に気分を害するような言葉を発する職員もおり指導している。	職員会議でも特に議題にするなど、日々勉強研修をし、職員のサービスの質の向上に努めている。声掛けはその人に合わせた呼び方を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや望みを話せる環境を作り自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしてあせらずゆっくりすごしながら散歩等の希望があれば出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	持っている色々な洋服をコーディネートしておしゃれを楽しめるようにしている。2ヶ月に1回好みにカットする。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが食べたいものを聞いて作ることもある。野菜の下ごしらえ等の手伝いやお茶碗洗いは交代で手伝って下さる	手作りバイキングで昼食会をしたり、おやつ持参で花見に出掛けたりする。出来るひとにはお盆やテーブル拭き・茶碗洗い、また簡単な下ごしらえを手伝ってもらい、楽しみながらの支援となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く取り入れ栄養バランスを考慮しそれぞれが食べきれる量を普通食やトロミ、刻み食にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きできる人は自分で行い出来ない人には義歯や自分の歯をブラッシングしたり歯間ブラシ等で清潔に保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全介助の人でもトイレに座らせ排泄を促し洗浄を行う。オムツの枚数を減らす為に定期的に確認し尿取りのみ交換で済むように配慮。夏場は布パンツにし早めにトイレ誘導し失禁予防している。	排泄チェック表で把握管理している。日中は布パンツで自立できている利用者もいる。トイレでの排泄へ自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し薬の調整を行ったり自然に排便できるように繊維食を増やし各体操で刺激して便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間の個人的要望を聞くことは困難であるが、洗身や湯船に入る時間は個人の希望に応じている。	週3回が基本ではあるが、利用者の希望や状況に応じて対応している。昨年は家族湯を利用するなど、入浴を楽しむ支援をしている。異性介助を拒まれる方もいるが臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中横になりたい時は休んでいる。昼寝時間は設定されているが無理に寝かさない。夜間は気温調整し気持ちよく休めるように個人の希望に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員完璧に服用されている薬を理解はしていないが、主な薬については理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣味を生かし裁縫や工作、洗濯物干し、食器あらいテーブル拭き等楽しんで行ったださり、気分転換につながっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近くのお寺や海岸まで散歩する。買い物や花見等の見学には家族やボランティアの協力を頂き外出している。	近辺のお寺や海の方へ散歩に出掛けたり、日常的な買い物に同行して外出する利用者もいる。家族の面会時にいっしょに近隣へ散歩される利用者もいる。家族やボランティアの協力をもらいながら外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の希望で小遣いを手元に持っているが、トラブルを考慮し事務所で預かっている。必要な時は自由に使えるようにし出納帳に記録している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>不穏状態が継続した場合は家族に電話をかけ話してもらう。手紙は県外に住む家族に月1回本人の手紙と管理者が近況を書いて請求書と共に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は清潔で明るく浴室以外は自由に使える。トイレが込み合う時間帯はポータブルトイレを使って頂く場合もありすぐ処理している。周りの壁にはイベントの写真、お花は季節感を味わってもらう。</p>	<p>リビングの壁には行事の作品や写真が飾っており、毎朝歌う替え歌の「青い鳥学校」の歌詞が貼られている。利用者の一日の流れの写真も飾っており、生活感があふれ居心地のよくなるような工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>狭い共有空間なので一人になることは出来ないがそれぞれの席は気の合うものと隣に設けてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の好みにされているが家族の居ない人については職員と一緒に配置換え等行い気持ちよく過ごせる様になっている。	遺影写真・位牌・家族の写真など、利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。利用者の部屋に置いてあるポータブルトイレは使用しない時には、可愛い布で覆われ目立たないよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを安全に継続していただく為に手すりを増やし、分かることを生かして貼り紙してそれぞれが自立できるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない